

令和6年度タンチョウ傷病個体収容結果

表1 平成12～令和6年度タンチョウ傷病個体収容結果（令和7年3月31日時点）

年度	交通 事故	列車 事故	電線 衝突	不明 衝突	スラ リー等	フェンス	他事故	中毒	栄養不 良・衰 弱	同種 闘争	捕食・ 襲撃	その他	(件)		(羽)			うち 鳥フル
													不明	死体	生体	収容個体 数		
平成12	8	2	5	1					4	1			1	14	5	19		
13	3	1	4	3			2	1	1			2	6	15	7	22		
14	4	4	14	3		1		2	2	3	1	2	1	22	12	34		
15	2	3	10	3	1	4	1	1					3	18	10	28		
16	2		12		1	1					1	2		8	10	18		
17	3	3	11	3	2	2	1		1	2	1	1	4	16	12	28		
18	3	4	6	3	2	1	1		1	1	1	1		12	9	21		
19	5	2	10	1	1	2	3	2	2	1	2	1	6	24	11	35		
20	6	4	12			3	3		1	1		2	2	18	13	31		
21	4	2	6	3	3	1	1		2	4	2	1	2	15	13	28		
22	2	6	5	2	2	2			5		1	1	5	17	8	25		
23	6	2	5	3		1	1		1	1	1		1	11	10	21		
24	4	7	5	1	3	1			2	1	1	1		14	11	25		
25	5	2	6	5	1	1	3		3	2	1	7	2	19	11	30		
26	10	2	6		1	2	2		2	2		1		12	12	24		
27	5	7	9	4	2	1			3	2		3	2	18	16	34		
28	8	2	3	4	2	1				2		3	7	22	10	32		
29	13	1	11	3	1	1	1	2	3	1	1	1	2	26	11	37		
30	7	6	3	6		6			4		1	3	3	23	10	33		
令和元	16	2	11	6	9	1			3		2	2	6	38	15	53		
2	13	1	3	4	3	2	3		1			1	1	22	9	31		
3	15	5	3	3	1	4	3		3		2	3	8	43	4	47		
4	18	3	1		7				1				24	31	22	53	1	
5	10	1	1	6	4	2	1		1			2	16	37	7	44	4	
6	20	3	2	5		2	1			1		2	17	39	14	53	2	
計	192	75	164	72	46	42	27	8	46	25	18	42	119	534	272	806	7	

※1 表中のデータは原因分析のためのデータが比較的そろっている平成12年度からとした。

※2 各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体が存在することによる。

※3 「他事故」には、ゴム栓などが嘴にはまってしまう事故や側溝などへの転落事故が含まれる。

※4 「フェンス等」とは、有刺鉄線、電気柵、シカ除けネット、シカ除け柵等への絡まりとなる。

※5 「スラリー等」とは、酪農業で設置している牛のふん尿貯めのタンクに誤って落下してしまったものとなる。

※6 「その他」には、疾病等が含まれる。

※7 「鳥フル」は、収容後の遺伝子検査により高病原性鳥インフルエンザウイルスへの感染が確認されたものを示す。

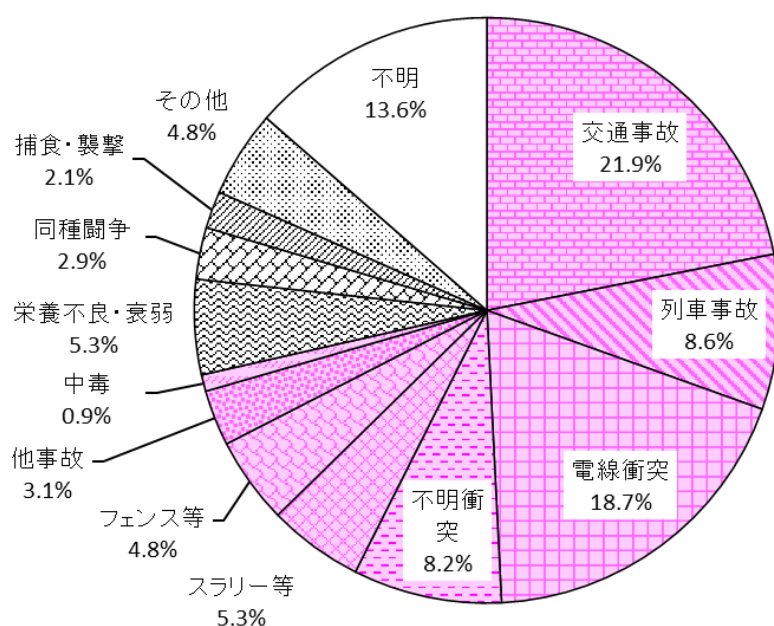


図1 タンチョウ収容原因別割合（平成12-令和6年度）
ピンク色は人為的な要因が関わる収容を示す

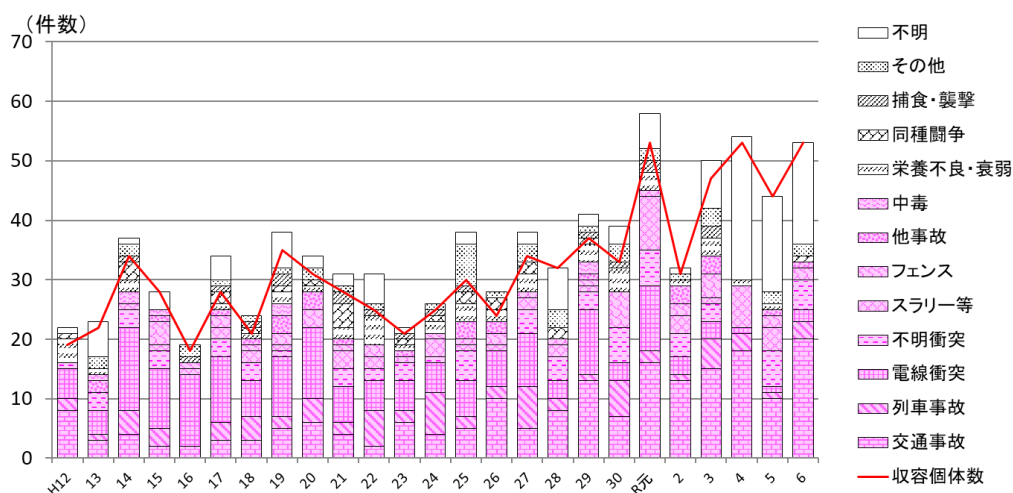


図2 タンチョウ年度別収容件数（平成12-令和6年度）
ピンク色は人為的な要因が関わる収容を示す

※各原因別の収容件数の合計が収容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる収容個体が存在することによる。